

公益財団法人 日本バレーボール協会
第 10 期・2019 年度事業計画
(2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日)

日本バレーボール協会（JVA）は、2011年2月1日に公益財団法人へ移行し、10期目を迎える。昨今のスポーツ界においては、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（東京2020大会）を目前に控え、スポーツへの関心が高まる中で様々な不祥事が続き、スポーツ・インテグリティの向上が喫緊の課題となっている。

このような環境のもと、JVAは、バレーボール、ビーチバレーボールの魅力を最大限に発揮するとともに、JVAのガバナンス及びコンプライアンスを更に強化し、バレーボールを愛するすべての国民の心身の健全な発達、維持および人間性の向上に寄与し豊かな社会の形成に貢献することを目指す。

1. 基本方針

2018年10月にキックオフをした、中期経営計画を推進するための重要なステップとなる2019年度において、特に下記の項目を重点項目として着実に実行していく。

財務改革の推進

中期経営計画の最重要課題の1つでもある財務改革について、2019年度においても収入・費用の両面からの改革を断行する。

- 費用削減：大会経費の削減、強化費用の精査
- 収入増大：大会収入の増加、協賛金、グッズ販売

選手強化事業

東京2020大会において最大限のパフォーマンスを発揮するための強化策の実行及び2024パリ大会を見据えた強化を推進する。

体罰・暴力・ハラスメント根絶に向けた取り組みの強化

体罰・暴力・ハラスメント対策プロジェクト（仮称）による実態調査、指導者教育の再構築等の対策を立案し、実行する。

MRS改善への取り組み

バレーボールを愛する人すべてに参加いただける、バレーボールファミリー会員制度（仮称）として、2020年度からの実行を目指す。

加盟団体との連携強化

加盟団体との更なる連携強化、経営課題の抽出・整理、法人化を推進する。

また、Vリーグ機構との連携強化（加盟団体化、年間の共同マーケティング、プロモーション）を図る。

ビジネスモデルの改革

従来からの大会運営にとらわれることのない、新ビジネスモデルの構築（大会価値の向上）に着手する。

■国際大会、国内大会、2020テストマッチ

★名称詳細★

FIVB：国際バレーボール連盟

AVC：アジアバレーボール連盟

VNL：バレーボールネーションズリーグ（Volleyball Nations League）

NTC：味の素ナショナルトレーニングセンター

Vリーグ機構：一般社団法人日本バレーボールリーグ機構

NF：各国のバレーボール協会（National Federation）

BVT：ビーチバレーボールツアー

MRS：JVAメンバー制度登録システム

2. 事業内容

（1）競技力向上事業及び競技力向上に係る日本代表選手団国際大会派遣事業

①日本代表（全日本）チーム及び選手の育成・強化事業

全国の社会人、大学生、高校生の中から選抜された有力選手による日本代表チームを編成し、国際競技力向上を図るため以下の諸事業を行う。

1) 男子・女子シニア日本代表チーム強化目標

東京2020オリンピックでの目標達成のため、男子、女子チームとも3シーズン目の体制でのチームを更に強化する。昨年度新設されたバレーボールネーションズリーグ（旧男子ワールドリーグ、女子ワールドグランプリ）において、男子は、世界ランクの上位チームとのジャイアントキリング（予想を覆す勝利、戦い）を演出すること、女子は、決勝リーグ進出を目論む。

また、アジア選手権は、男女とも表彰台を目指す。ただし女子は、スケジュールの関係上シニアチームに準ずるチームで参加を計画する。

本年度の最終ターゲットの2019ワールドカップにおいて、男子はベスト4、女子は表彰台に上がることを目標としチーム強化を行う。

なお、女子は世界のトップチームが集いスイスで開催されるモントルーマスタースに参加し、シーズン開幕戦を戦う。

■男子：国内合宿・NTCを中心に実施

海外合宿・VNL大会前および8月に、欧州の大型チームと強化合宿を予定

■女子：国内合宿・NTCを中心に実施

海外合宿・世界ランキング2位の中国と合同強化合宿を計画

注）シニアチームとはトップレベル選手で構成された日本代表チーム

2) 男子U-23日本代表チーム強化合宿

本年度開催される第3回アジアU-23選手権大会を目指し、選手強化合宿を行う。

■男子：国内合宿・NTCを中心に実施

注）U-23チームとは、2019年の大会出場を予定するため1997年1月1日以降に出生した選手で構成される日本代表チーム

- 3) 男子・女子ユニバーシアード日本代表チーム強化合宿
 本年7月にイタリアで開催されるユニバーシアード大会（2年に1回開催）でのメダル獲得を目標として選手強化合宿を行う。
 ■男子：国内合宿・NTC 他で実施
 ■女子：国内合宿・NTC 他で実施
 注) ユニバーシアードチームとは、主に大学生を中心に構成される日本代表チーム
- 4) 女子ジュニア日本代表チーム強化合宿
 女子チームは、7月にメキシコで開催される世界選手権大会（U-20）でのメダル獲得を目標としてチーム強化合宿を行う。
 ■女子：国内合宿・NTC 他で実施
 注) ジュニアチームとは、女子が2000年1月1日以降に出生した選手で構成される日本代表チーム
- 5) 男子（U-19）・女子（U-18）ユース日本代表チーム強化合宿
 男子はチュニジア、女子はエジプトのアフリカ開催となった9月の世界選手権大会で両チームともメダル獲得を目標としチーム強化合宿を行う。
 ■男子：国内合宿・NTC 他で実施
 ■女子：国内合宿・NTC 他で実施
 注) ユースチームとは、男子が2001年1月1日以降に、女子が2002年1月1日以降に出生した選手で構成される日本代表チーム

②競技活動を行う選手の競技・練習環境の整備、セカンドキャリアに関する啓蒙、情報発信

③将来性を有する選手の発掘及び育成強化事業

- 1) 全国小学生・中学生・高校生長身選手の発掘育成事業
 将来有望な長身選手の発掘、育成、強化を目的に、公募および推薦によるオーディションを行い、選抜した有望選手の育成強化合宿を実施する。そして、有望選手のリストを中学生よりデータ化し、選手情報を経年的に強化委員会等で共有化する。
 また、年1回各カテゴリー（中学生・高校生）別の有望選手達による選抜チームを編成し、海外遠征で外国人選手との国際試合を行い、国際的に通用する選手の育成を行う。
 加えて、将来のオリンピックを見据えたターゲット選手を選定し、それらの選手の一貫指導（プロジェクトコア）を実施していく。

④競技力向上にかかわるバレーボール技術の調査研究及びスポーツ医・科学の調査研究事業

- 1) 日本代表選手の体力測定評価、測定結果に基づくトレーニング処方立案と提言
 2) 日本チームとの対戦が想定される外国チームの戦力掌握
 3) トレーナーの育成、教育を行い、日本代表チームに派遣
 4) 日本代表チームにドクターを派遣し、歯科・整形外科診断を中心に選手の健康維持、怪我防止及び傷害発生時の対処、薬剤を手配
 5) アンチ・ドーピングの啓蒙を含むスポーツ・インテグリティ保護と強化をはかる

⑤日本代表選手団の国際大会派遣事業

選手、チーム強化合宿の効果を検証するとともに、実戦（試合）を経て得られる技術、戦術他

総合的な競技力向上を目的として以下の各大会に日本代表選手団を派遣する。

■男子：

シニア

- ・FIVB バレーボールネーションズリーグ 2019 (参加 16 カ国・総当り戦)
5/31～7/8 セルビア／東京／ブルガリア／アメリカ／ドイツ／アメリカ (ファイナル)
- ・アジア選手権 イラン (9/13～21)
- ・FIVB ワールドカップ 福岡／広島他 (10/1～15)

アンダーカテゴリー

- ・ユニバーシアード イタリア (7/3～14)
- ・U-23 アジア選手権 ミャンマー (7/28～8/5)
- ・U-19 世界選手権 チュニジア (8/21～30)

■女子：

シニア

- ・FIVB バレーボールネーションズリーグ 2019 (参加 16 カ国・総当り戦)
5/21～7/7 ブルガリア／トルコ／香港／東京／韓国／中国 (ファイナル)
- ・アジア選手権 韓国 (8/17～25)
- ・FIVB ワールドカップ 横浜／北海道／大阪他 (9/14～29)

アンダーカテゴリー

- ・ユニバーシアード イタリア (7/3～14)
- ・U-20 世界選手権 メキシコ (7/12-21)
- ・U-18 世界選手権 エジプト (9/5-15)

(2) 国際大会開催事業及び国際貢献・交流事業

①国際大会開催事業

1) FIVB バレーボールネーションズリーグ 2019

FIVB バレーボールネーションズリーグは、参加権を与えられたコア 12 チームにチャレンジャー4 チームが加わり、2018 年からスタートした世界転戦型のリーグ戦方式の大会。2018 年に第 1 回大会が行われ、2024 年までは、男女日本代表チームはコア 12 チームのひとつとして参加資格が与えられている。

■FIVB バレーボールネーションズリーグ 2019 男子東京大会

- 開催期間：6月7日(金)～9日(日)
- 開催都市：東京都調布市(武蔵野の森総合スポーツプラザ)
- 参加国：日本、アルゼンチン、ブラジル、イラン
(選手団 80 人、競技役員 10 人、計 90 人が参加予定)
- 試合数：延べ6試合《1日2試合×3日》

■FIVB バレーボールネーションズリーグ 2019 女子東京大会

- 開催期間：6月11日(火)～13日(木)
- 開催都市：東京都調布市(武蔵野の森総合スポーツプラザ)
- 参加国：日本、ブラジル、セルビア、タイ

(選手団 80 人、競技役員 10 人、計 90 人が参加予定)

➤試合数：延べ6試合《1日2試合×3日》

2) FIVB ビーチバレーボール ワールドツアー2019 4 Star

ワールドツアーは FIVB 主催の毎年世界各地で開催されるビーチバレーボール界最高峰のイベント。大会は5段階のグレードに分かれ、今大会は上位から2番目の4 Star イベント。

➤開催期間：7月24日(水)～28日(日)

➤開催都市：東京

➤参加チーム数：本戦 男女各24(最大)

➤大会方式：本選=プールプレー(6プール×4チーム) & *シングルエリミネーション(4ラウンド)

(*)シングルエリミネーション方式：1回負けたら敗退のトーナメント方式

3) FIVB ワールドカップバレーボール 2019 男女大会

4年に1度開催されるバレーボール界で歴史と伝統のある世界最大規模のイベント。

世界5大陸(アジア、北中米、南米、ヨーロッパ、アフリカ)から FIVB ランキング上位2チーム、前年に行われた世界選手権での優勝国、そして開催国日本の計12チームが総当たり方式で競う大会

■女子大会

➤開催期間：9月14日(土)～9月29日(日)

➤開催都市：横浜、浜松、札幌、富山、大阪の5都市

➤参加国：各5大陸の FIVB ランキング上位2か国、2018世界選手権優勝国セルビア、開催国日本 計12チーム

(選手団240人、競技役員120人、計360人が来日予定)

➤試合数：延べ66試合

1日3試合×11日×2開催地=66試合

■男子大会

➤開催期間：10月1日(火)～10月15日(火)

➤開催都市：福岡、長野、広島の3都市

➤参加国：各5大陸の FIVB ランキング上位2か国、2018世界選手権優勝国ポーランド、開催国日本 計12チーム

(選手団240人、競技役員120人、計360人が来日予定)

➤試合数：延べ66試合

1日3試合×11日×2開催地=66試合

②国際貢献・交流事業

1) FIVB 及び AVC 役員等派遣事業

世界のバレーボール界の統轄組織である FIVB 及びアジアの統轄組織である AVC の理事職及び競技運営、審判規則、指導普及、医事ほか各種委員会の委員として本会の代表を派遣、世界のバレーボール界の発展に尽力し国際的な貢献を行う。

本年は、FIVB 及び AVC 理事会ほか各種会議に当該メンバーを派遣するとともに、国際レベルの指導者講習会への講師派遣、FIVB および AVC が主催する大会への競技役員ならびに審判員を派遣する。

2) バレーボールバンク事業

自国におけるバレーボール普及発展のため用器具等の補助が必要な国に対し、競技会やトップバレーボールチームが使用したボール、その他バレーボール用器具を寄贈して競技の普及を図り、同時に様々なバレーボール情報を提供し、後発開発途上国等でのスポーツ振興に寄与する。

併せて同事業の戦略的展開を通じ、寄贈対象となった各国のバレーボール協会（NF）との友好を結び、連携強化を図る。

(3) 講習会開催事業、指導者、審判員等養成及び資格認定・登録事業

①競技者拡大

近年の競技人口の減少は憂慮すべき事態であり、特に小学生、中学生が著しく減少している。競技人口を増やすことは喫緊の課題であるため、競技者拡大に向けた事業の検証・整理を行い、現行の事業のリニューアルも含めた計画（中期・長期含む）を設定する。また、競技者の更なる拡大・競技の継続に向け、新規事業を立ち上げ競技者拡大を図ることを念頭に、今年度は以下の事業を実施する。

1) Vリーグ選手と一緒にバレーボール教室

小学生のバレーボール未経験者及び初心者を対象に、Vリーグ選手が参加してバレーボール教室を全国5会場で開催予定。

2) 中学校ビギナー選手バレーボール大会推進事業

中学1年生への競技継続のモチベーションの植え付けと共に、競技の魅力及び競技力の向上を目的とするためのバレーボール教室及び大会を開催する。

3) 全国小中一貫バレーボール教室事業

小・中学生合同のバレーボール教室を実施する。一貫指導の充実とバレーボール人口の増加を図ることを目的として、全国3会場（予定）で開催する。（開催地については調整中）

4) 幼稚園・保育園等でのソフトバレーボール（風船等）実践事業

ソフトバレーボールを通して、幼児期にバレーボールの楽しさを伝えるとともに、ボールを使ったコーディネーショントレーニングを実践し、幼少期の運動能力・発育を促す事業展開する。

5) アンダー10大会促進事業

小学4年生以下を対象としたチーム内でレギュラー以外の選手の競技継続を目的とした大会を開催し、ボール接触機会と競技の楽しさを味わってもらうとともに、次カテゴリーでのバレーボール継続を促進する。

②指導者養成事業

各種別の指導者を対象に以下の主な養成講習会等を開催する。

1) 都道府県別バレーボール指導者研修会

各都道府県の指導者の資質向上を目的に、各地で開催する。（開催地については調整中）

2) 日本スポーツ協会からの受託事業として、日本スポーツ協会公認上級コーチ、コーチ、上級指導員、指導員、バレーボール専門教科認定講習会等、資格取得に向けたバレーボール専門科目の講習会を各地で開催する。

3) 本会公認講師認定講習会・公認講師研修会・公認指導者研修会

本会が開催する講習会の講師を務める指導者を対象として、認定講習会及びスキル向上のための研修会を開催する（毎年東京・大阪で交互に開催）。

- 4) 全国小学生バレーボール指導者研修会
小学生の指導者を対象として第一次・第二次・第三次（日本スポーツ協会カリキュラム変更後は二次までとする。）講習会を各地で開催する。（開催地については調整中）
- 5) 全国中学生バレーボール指導者研修会
中学生の指導者を対象として全国中学生指導者研修会を各地で実施する。（開催地については調整中）

③審判員等養成・育成事業

国際大会における競技役員および国内競技会の適正な判断と円滑な試合運営を行う審判員の育成と技術向上を目的に、以下の講習会・研修会を開催する。

講習会・研修会名等	開催期間	開催地・会場等
全国ラインジャッジクリニック	4/29～5/1	丸善インテックアリーナ大阪
国際審判員（候補）審判技術強化事業	4/30～5/3	大阪市中央体育館
6人制S3レフェリー技術強化事業	5月～8月	全国各ブロックで開催
9人制N2レフェリー技術強化事業（N1レフェリー審査）	5/2～4（予定）	大阪（住友電工伊丹）予定
A級審判員資格審査講習会	8/10～14	大阪4泊5日
9人制審判員育成事業	10/19-21,24-27	鳥取市、青森市
A級審判員研修会（6人制）	11/26～12/1	東京都（大田区総合体育館他）
A級審判員研修会（9人制）	11/28～12/1	丸善インテックアリーナ大阪
全国審判委員長研修会・全国6人制審判講習会	2020年 3/21～22（予定）	東京文具共和会館・慶応義塾中等部
全国9人制審判講習会	2020年 3/29（予定）	大阪

④指導者および審判員資格認定事業

1) 指導者資格認定事業

バレーボールを正しく、安全に、楽しく指導することを目標に、バレーボールの特性を活かしながら本質的な素晴らしさを伝える指導者資格として以下の認定登録を行う。

- 小学生バレーボール指導者資格 ○ソフトバレーボール リーダー/マスターリーダー
○公認講師

○ビーチバレーボール指導者研修会（ビーチバレーボール講習会開催事業P10参照）

2) 審判員資格認定事業

競技会における適正な判断と円滑な試合運営を行う審判員の資格認定と登録を行う。

- A級審判員 ○A級候補審判員 ○B級審判員 ○C級審判員
○レフェリーインストラクター

※ビーチバレーボール審判員（ビーチバレーボール講習会開催事業参照）

(4) 全国大会等国内競技会開催事業

①天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会

本会に登録する全てのチーム（小学生を除く）が参加可能な、天皇杯・皇后杯の名を冠するに相応しい、国内最高峰に位置づけられている大会である。本年は以下の日程で開催する。

■都道府県ラウンド：

- 開催期間：4～7月
- 開催都市：各都道府県内体育館

■ブロックラウンド：

- 開催期間：9～10月
- 開催都市：各地域ブロック内体育館

■ファイナルラウンド：

- 開催期間：3月25～29日
- 開催都市：神奈川県川崎市 とどろきアリーナ（1回戦～決勝）（48チーム参加）

②全日本小学生大会（男女・混合大会）

教育的配慮のもとにバレーボールを通じて全国児童の親睦と交流を図ること、バレーボールによる小学生の体力向上とたくましい意欲の醸成に努めること、小学生から正しいバレーボールの基本技術とチームプレーを体得し、楽しいゲームが出来るように指導することを目的に、以下の日程で実施する。

■都道府県大会：

- 開催期間：4～7月
- 開催都市：各都道府県内体育館

■全国大会：

- 開催期間：8月6～9日
- 開催都市：川崎市他（とどろきアリーナ他）

③JOC カップ全国都道府県対抗中学大会

将来のオリンピック選手の発掘と中学生バレーボールのレベルアップを図り、各チームとの交流を通して友情を深め、フェアプレー精神の高揚を目指し、中学生指導者の研修の場とすることを目的に、以下の日程で開催する。

- 開催期間：12月25～28日
- 開催都市：大阪（丸善インテックアリーナ大阪他）

④全日本高等学校選手権大会

都道府県予選を勝ち抜いた高校日本一を決める大会として以下の日程で実施する。

- 開催期間：2020年1月5～7日、1月11～12日（1回戦～決勝）
- 開催都市：東京都調布市（武蔵野の森総合スポーツプラザ）

⑤秩父宮賜杯・秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会

大学在校生で構成されたチームなら全ての大学が参加できる大会として、以下の日程で大学日本一を決める大会を実施する。

■秩父宮賜杯全日本大学選手権大会（男子）

- 開催期間：11月26日～12月1日
- 開催都市：東京都（選抜方式にて実施）

■秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会（女子）

- 開催期間：11月26日～12月1日
- 開催都市：東京都（大田区総合体育館他）

⑥前記各競技会に加え本会主催、開催地都道府県協会等の主管により、以下の各種別全国大会を開催する。

大会名等	開催期間	開催都市
第5回全日本9人制バレーボールトップリーグ・・・・・・・・女子レギュラーR	6/1～7/29	大垣市、広島市、鹿児島市、神戸市
第5回全日本9人制バレーボールトップリーグ・・・・・・・・女子ファイナルR	8/10～11	墨田区
第5回全日本9人制バレーボールトップリーグ・・・・・・・・男子	7/27～10/14	松山市、江東区
第71回全日本9人制実業団女子選手権大会 第72回全日本9人制実業団男子選手権大会	7/26～29	松山市
全日本9人制クラブカップ女子選手権大会	8/2～4	大阪市
全日本9人制クラブカップ男子選手権大会	8/9～12	加古川市
全国社会人西ブロック男女優勝大会	10/19～21	鳥取市
全国社会人東ブロック男女優勝大会	10/24～27	青森市
全日本9人制総合女子選手権大会 全日本9人制総合男子選手権大会	11/28～12/1	大阪市
第10回全国6人制バレーボールリーグ総合男女優勝大会・・・・・・・・地域リーグ	4月～12月	全国各地
第10回全国6人制バレーボールリーグ総合男女優勝大会・・・・・・・・東西決勝リーグ	1月～3月	未定
第10回全国6人制バレーボールリーグ総合男女優勝大会・・グランドチャンピオンマッチ	3月	未定
黒鷲旗全日本男女選抜優勝大会	5/1～5/6	大阪市
全日本6人制クラブカップ男子選手権大会	8/8～11	旭川市
全日本6人制クラブカップ女子選手権大会	8/9～12	福井市
全国ヤングクラブ優勝大会	9/21～22	大阪市
全国ソフトバレー・シルバーフェスティバル	10/11～13	宮崎市
全国ソフトバレー・レディースフェスティバル	10/25～27	静岡市
全国ソフトバレー・スポレクフェスティバル	11/1～3	沖縄市
全国ソフトバレー・フリーフェスティバル	11/9～10	福岡市
全国ヴィンテージ8'S交流大会	11/8～10	那覇市

⑦公益財団法人日本体育協会等との共催により、以下の大会を実施する。

- 1) 国民体育大会バレーボール競技
 - 日程：10/2～5 開催都市：茨城県ひたちなか市・結城市
- 2) 日本スポーツマスターズ2017
 - 日程：9/21～24 開催都市：岐阜県山県市他

⑧公益財団法人全国高等学校体育連盟等との共催により、以下の大会を開催する。

- 1) 全国高等学校総合体育大会女子バレーボール競技
 - 日程：7/24～28 開催都市：宮崎県都城市・小林市
- 2) 全国高等学校総合体育大会男子バレーボール競技
 - 日程：7/30～8/3 開催都市：宮崎県都城市・えびの市

3) 全国高等学校定時制・通信制大会

➤ 日程：8/12～15 開催都市：神奈川県平塚市

⑨公益財団法人日本中学校体育連盟等との共催により以下の大会を実施する。

全日本中学校バレーボール選手権大会

➤ 日程：8/17～20 開催都市：和歌山県和歌山市

(5) V. LEAGUE 開催及び開催支援事業

V リーグ機構が主催する V. LEAGUE の開催においてバレーボールの普及・振興に寄与するとともに、大会のジュリーと審判員の派遣により、V. LEAGUE の運営に対しての支援事業を行う。

(6) 地域グループの育成および強化事業・バレーボール教室支援事業

本会の加盟団体および全国的に組織されたバレーボール競技団体との連携強化を図ることを目的に、運営のサポートや各種事業の支援を行う。

(7) ビーチバレーボール事業

①競技力向上事業及び競技力向上に係る日本代表選手団国際大会派遣事業

1) ビーチバレーボール男女日本代表チーム

東京 2020 オリンピックでのメダル獲得を最大の目標とし、有力選手の強化と国際大会への派遣を行う。

・FIVB 世界選手権（ドイツ、6/28～7/7）

東京 2020 オリンピックでの上位進出を見据えて、本大会でのメダル獲得を目指す。

・AVC アジア選手権（中国、5/9～12）

東京 2020 オリンピックでの上位進出を見据えて、本大会でのメダル獲得を目指す。

・FIVB ワールドツアー（1～8 月まで 42 大会開催予定、9 月以降は未発表）

強化指定選手のうち選出されたチームを派遣

・AVC アジアツアー（4 月に 2 大会、8 月に 1 大会開催予定。今後追加可能性あり）

年間、3 大会に派遣予定。追加大会についても都度派遣予定

・OQT（中国、9/18～22）

東京 2020 オリンピック出場権獲得のために、出場資格保有チームを派遣

・コンチネンタル第 1 フェーズ（時期・開催国未定）

東京 2020 オリンピック出場権獲得のために、男女各 2 チームを派遣。第 2・3 フェーズ進出のために 1 位通過を目指す。

2) ビーチバレーボール世代別男女日本代表チーム

将来有望選手の発掘、育成、強化を目的に、選抜した選手を十分な準備を行った上で以下の世代別国際大会に派遣する。また計画的な発掘・育成を通じた長期的な強化を目指して常設した U-19 を拡充し、U-21・U-17 を見据えたアンダーエイジカテゴリー強化を目指す。

・FIVB U-21 世界選手権（タイ、6/19～23）

②講習会開催事業

1) ビーチバレーボール審判講習会

ビーチバレーボールの審判員・競技者を対象に、ビーチバレーボールブロック審判講習会を開催する。更に、ビーチバレーボール選手及び指導者を対象に、ルール説明会を開催する。

(平成 31 年 1 月 12 日現在)

講習会名等	開催期間	開催都市
ビーチバレーボールブロック審判講習会	4～5 月	茨城県、福井県
ビーチバレーボール審判員研修会	8 月	神奈川県川崎市
A級審判員研修会（ビーチバレーボール）	8/16～19	大阪府岬町
ビーチバレーボール指導者研修会	5～10 月	会場調整中
全国ビーチバレーボール審判講習会	未定	神奈川県

③全国大会等国内競技会開催事業

1) ジャパンビーチバレーボールツアー

2016 年度より、これまで JVA が主催した「シリーズ A」と日本ビーチバレーボール連盟が主催した「JBV ツアー」を統合し、「ジャパンビーチバレーボールツアー」として大会を新設した。

日本におけるビーチバレーボール競技のより一層の発展と、日本から世界に羽ばたくビーチバレーボール選手の輩出を目的として、4～10 月に全国各地で大会を開催する。昨年度に引き続き、シーズン拡大のために例年 5 月の開幕を 4 月に前倒しし、またメディア露出の見込める新開催地を追加する。また興行化、集客力の増大を目指して大会構造の見直しを行い、トップツアーにあたる「BVT I」については都市および観光地などでの開催を主とする。普及やアンダーエイジカテゴリー大会を中心とした「BVT II・III」との連携を強化し、ビーチバレーボール全体の普及発展に寄与することを目指す。

また競技全体の商品価値を高めるべく、引き続きジャパンツアー（BVT I）を主としたプロモーション拡充やブランディング強化を図る。

<2019 年度開催日並びに開催都市>

(平成 31 年 1 月 8 日現在)

ジャパンビーチバレーボールツアー	開催期間	開催都市
第 1 戦 沖縄大会	4/27～28	沖縄県中頭郡西原町
第 2 戦 平塚大会	5/18～19	神奈川県平塚市
第 3 戦 東京大会	7/20～21	東京都品川区
第 4 戦 松山大会	8/24～25	愛媛県松山市
第 5 戦 名古屋大会	9 月上旬	愛知県名古屋市
第 6 戦 都城大会	9 月下旬	宮崎県都城市

【ジャパンビーチバレーボールツアーファイナル】

最大の目的である競技の確立と世界レベルで活躍する選手の輩出をより一層活性化し、最大限に引き出していくために、JVA 主催大会や海外で活躍するトップ選手が一堂に会して競い合い、更に日本ビーチバレーボール界のモチベーションを高揚させていく。

(平成 31 年 1 月 8 日現在)

ジャパンビーチバレーボールツアーファイナル	開催期間	開催都市
グランフロント大阪大会	10/12～13	大阪府大阪市

2) 国民体育大会ビーチバレーボール競技（正式競技）

大会名等	開催期間	開催都市
第 74 回国民体育大会	9/13～16	茨城県東茨城郡大洗町

3) 日本選手権

各世代の日本一を決める日本選手権大会として、本年は以下の日程で実施する。

(平成31年1月8日現在)

大会名等	開催期間	開催都市
第31回全日本ビーチバレー大学男女選手権大会	8/6～8	神奈川県川崎市
ビーチバレージャパン女子ジュニア選手権大会	8/8～11	愛媛県伊予市
第18回全日本ビーチバレージュニア男子選手権大会	8/9～12	大阪府阪南市
第33回ビーチバレージャパン	8/10～12	神奈川県藤沢市
第30回全日本ビーチバレー女子選手権大会	8/15～18	大阪府泉南郡岬町
第10回全国中学生ビーチバレー大会	8/16～17	神奈川県藤沢市

(8) マーケティング事業

公益事業を安定的に推進すべく、バレーボールの社会的な価値および本会が所有する各種プロパティの価値を向上するために適切なプロモーション活動を行い、本会事業の推進に賛同いただいている協賛社とのパートナーシップ強化および新規協賛社の獲得に向け、積極的に活動を行う。

(9) バレーボール用品・用具の公認・推薦事業

競技の公正、安全ほか競技者が安心して楽しくプレーできるように、ボール、ネットほか用品・用具の公認・推薦の認定を行うとともに、競技者及び体育施設等へ、より良い用品・用具が提供されるよう、販売・製造事業者への働きかけを行っていく。

また、公認審判員やソフトバレーリーダーなどに対しては、資格保有者としての自覚を促すため、公認物品の販売を通してその着用を推奨する。

(10) ルールブック販売事業

バレーボールの愛好者、審判員、指導者をはじめとする多くの国民に対し、最新のルール情報を提供するために、公認ルールブックであるバレーボール6人制競技規則、同9人制競技規則、ソフトバレーボール競技規則、ビーチバレーボール競技規則を出版販売する。

(11) 肖像使用・バレとも・物品販売等公益事業の財源を獲得する事業

公益事業を安定的に推進すべく、以下の3事業を行う。

① 肖像使用許諾事業

本会登録選手の肖像権等の管理運営を行い、肖像権使用料収入を得て、一定額を肖像が使用された選手等に配分する。

② バレともチケットサイト事業

バレともチケットサイトを通じて、会員ならでのチケット先行販売、特別チケット販売等の有用な情報を提供し、且つ財源の一助とする。

③ バレーボール関連グッズの販売事業

バレーボールの魅力を高め、見る、する人口の拡大に貢献するような商品の開発、販売を行う。

(12) 東京 2020 大会準備室

バレーボール競技、ビーチバレーボール競技及びシッティングバレーボール競技の東京 2020 大会における成功と盛り上げに向け準備室は、JVA 及び FIVB との連携と協同作業を行い、競技施設、競技運営、テストイベント、事前キャンプにかかわる諸準備を推進する。スポーツ庁や東京都、そして公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会との緊密な連携と積極的な協力を促進し、「アスリートファースト」及び「レガシープラン」を念頭に準備を進める。

- ① JVA 東京オリンピック・パラリンピック競技大会準備委員会として各分野の準備を推進する。
- ② 準備委員会の中に担当を決め細部にわたる準備を徹底する。
- ③ 7月にビーチバレーボール競技のテストイベントを開催し、オリンピックに備える。
- ④ 大会競技役員の研修等を実施し、ボランティアのモチベーションを高め、オリンピックに備える。
- ⑤ 東京 2020 大会の告知・プロモーションを計画し、オリンピックムーブメント醸成に力を注ぐ。
- ⑥ パラリンピック競技（シッティングバレーボール競技）については、一般社団法人日本パラバレーボール協会と連携を取りながら協力をしていく。

(13) その他の重点項目

- ① コンプライアンス、ガバナンスの強化を推進する。
特に、体罰・暴力・ハラスメントの撲滅については、2020年東京オリンピックの開催を見据えて、対策プロジェクトを立ち上げて加盟団体との連携のもと取り組みを強化する。
- ② 人事制度の整備
- ③ JVA ホームページに NF ならでは競技データを盛り込み、リファレンスとしての機能を充実させる。プレスリリースや戦評などの質を上げることにより、力のある媒体にバレーボールの魅力アピールする広報戦略により、バレーボールの情報を広く発信させる。
- ④ 本会の事業戦略に適合した IT 環境の整備と強化を図る。また、MRS については、バレーボールを愛する人すべてに参加いただける、バレーボールファミリー会員制度（仮称）としてリニューアルし、2020年度からの実行を目指す。
- ⑤ Vリーグ機構との連携を更に強化（加盟団体化、年間の共同マーケティング、プロモーション）する。
- ⑥ 競技の高潔性を保ちアンチ・ドーピングを遵守する。
日本代表選手（シニア・ユニバ・ジュニア・ユースを含む）やトップリーグの選手、チームスタッフに対して講習会を実施し、バレーボール界における更なるドーピング知識の浸透を図る。
また、大会参加選手へのガイドブック（「Play True Book」）の配布や高校生に対してのアウトリーチプログラムの実施等、幅広い年齢層へのアプローチをしていく。

以上